

教育目標		本県学校教育の指導方針に基づき、豊かな人間性や社会性を培うとともに、科学的な思考力と創造性を身に付け、科学技術の発展と進歩に寄与する、心身ともに健全な人間の育成を目指す。					総合評価		
運営方針		あらゆる機会(Chance)を生かし、自分を変革し高め(Change)、粘り強く挑戦する(Challenge)生徒の育成を目指す。3つの「C」の実践							
平成24年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標			B		
SSHを軸として生徒の学ぶ意欲を引き出す個に応じた教育が、計画的な学習指導、進路指導の成果として実を結びつつある。しかし一方で主体性と粘り強さ、規範意識については不十分さを感じている。開校10周年と併設型中学の開校に当たり、中高一貫教育校のグランドデザインに取り組む。		スーパーサイエンスハイスクール(SSH)を活用して科学的思考力を高めるとともに、タイ姉妹校との交流で英語活用能力を高め、生徒の学力向上を図る。		大学や企業の研究機関との連携による科学的体験活動、海外姉妹校との交流によって学習に対する意欲を高め、各種資格取得や科学オリンピックへの参加等、積極的に学習に取り組む生徒を育成する。					
		来年度の併設型中学校の開校に向けて、中高一貫教育校として魅力ある学校のグランドデザインをする。また、あらゆる機会を利用して県民へのアナウンスに努める。		県教育委員会の開校準備員委員会の下、全職員協働で、施設・設備面、教育課程、その他教育環境等、開校に向けて綿密に万全の準備をする。また、リーフレットの作成、Web Siteの充実等により積極的な広報を展開する。					
		生徒の実態を的確に把握して、個に応じた適切な指導に努めるとともに、学校、家庭、地域の連携をさらに深め、心身の健全な発達と、他を認め合い高め合う集団づくりに努める。		自宅学習の定着を目指し、基礎的学力とともに高度な学力を計画的に育成する。また、生徒が抱える問題の早期発見、早期解決に努めるとともに、自他を敬愛する心や公共心・道徳心をはぐくみ、規範意識の高揚に努める。					
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)		
学習活動	教職員の指導力の向上を図る。	授業公開、研究授業を実施し、指導力の向上を図る。		B	初任者研修等で研究授業を実施した。中学開校に向け絶対評価を含む指導と評価について研究した。	研究授業を各教科に義務付けることも必要。具体の授業について評価の研究を行う。またペーパーテストにおける観点別評価を研修する。	習熟度別少人数授業は、生徒・保護者に好評である。		
		中学校に授業に備え教材研究、指導法・評価法について研修する。		A					
	生徒の基礎学力の定着を図る。	習熟度別少人数指導、個別補習、学力補充講座等積極的に実施する。		B				数学と英語で少人数習熟度別授業を充実させた。ただ、生徒の家庭学習の量については、徐々に増加する傾向が現れている。	家庭学習の必要性を自覚させ、習慣付けるのための方策を検討する。
		生徒の実態を的確に把握して、日常の学習活動を点検させる。		B					
生徒指導	基本的生活習慣の定着と規範意識を高める。	全校体制で行う校門指導、校内巡視等を通じて生徒理解を図る。また、挨拶の励行など、生活習慣の確立と充実を図る。		A	問題行動や特別指導は激減し、生徒たちは落ち着いた学校生活を送っている。	教師間の情報交換、保護者との連携により、初期対応に迅速かつ慎重を期す。	今後とも指導をよろしく願います。		
	安心して生活できる学校を目指す。	交通安全教室、薬物乱用防止教室、着こなしセミナー等を開催し、人間の在り方・生き方を考える機会を持つ。		A				各種講演会は、自分も周囲の人々も大切にすることを考えさせる良い契機になった。	普段から生徒に対する「目配り・心配り」を心掛け、小さな変化に対しても迅速に積極的な声掛けを行う。
		生徒の悩みを積極的・共感的に受け止め、これに答える指導や助言を与える。		B					
進路指導	個々の生徒の個性の伸長に努め、意欲的に進路実現を目指す環境作りに努める。	各学年の目標に沿った学年集会やHRを通して生徒のやる気を引き出す指導に努める。		B	生徒の意欲の高揚に役立っている。一時的な効果にならないようにしたい。	生徒が学力を向上させ進路目標を実現するには、生徒の自主的な学習意欲を高めることが最も重要である。生徒のニーズにあった情報提供を充実させるため職員研修を実施する。	SSHの取り組みの成果を、進路実績として、見えるように・・・。		
		各種進学補習、校外模試、イブニングスクールを実施、学力伸長の場の充実に努める。		A					
		進路資料等の整備・充実を図り、生徒への的確な情報提供に努める。		B					
	理数科高校としての特色を活かした進路指導に努める。	SSHで培った科学的・数学的な力量を活かせる進路指導に努める。		B	各種コンテスト等の成果は見られる。進路実現には生かされたい面もあった。	早い時期からの面談等を実施する。国公立大学の推薦入学制度を積極的に利用し、本校で培った知識や経験を活かせる進路選択をサポートする。	国公立への進学を目指してほしい。		
国公立大学、難関私立大学の理数系学部への合格者数を20人にする。		C	取り組む時期が遅く、地元への進学にこだわりすぎる生徒が多かった。						
育友会活動の充実と活性化を図る。		広報誌の充実と研修会等、育友会行事への積極的参加を促進する。		A	A	A	育友会のまとまり、教師との連携が生まれ、教育活動に良い影響を及ぼした。	教師と保護者の連携が子どもにすばらしい影響を及ぼした。	マスメディアをうまく利用してい

渉 外	10周年記念事業の計画および準備を行う。	記念誌・式典など、10周年記念事業の計画および準備を、同窓会と連携をとりながら進める。	B	B	B	まほら会・育友会の協力を得て、記念事業実行委員会を立ち上げ、協力を得ながら、事業計画を進めている。	記念事業実行委員会においては、学校全体として動けるように、再編成が必要である。	る。
	適切な広報活動を展開する。	ポスター、パンフレットなどを作成し、広報活動を進めていく。	B	B	B	教員で協力しあって、塾・中学校に訪問した。	塾・中学それぞれに対して対応できる体制を確立させたい。	
文化図書	文化祭を通して、クラス等の団結力を一層強める。	文化委員会の活性化を図るとともに、生徒の意見を企画・運営に反映させ、生徒自らが作り上げていく文化祭を目指す。	A	A	A	文化委員が中心となりクラスをよくまとめた。	企画・運営に関しても、生徒自らが作り上げていく姿勢を養わなければならない。	「図書館だより」は、生徒理解の上で保護者も関心が高い。もっと生徒発信の刊行物がある。
	読書指導の充実を図る。	「図書館だより」の発行等、図書委員活動の活発化を図る。	B	A	A	多くの生徒の関心を引いた。生徒の貸し出し業務の活性化に繋がった。	一斉読書を行い、読書の楽しさ感じ、またそれをクラス皆で共有し、話し合う機会が必要である。	
		学級文庫を配置し、一斉読書によりクラス全体で感想を話し合う。	A			青翔読書大賞の決定により、生徒の読書への関心を深めた。		
環境整備	生徒の美化意識向上と学校環境の美化を推進する。	ゴミの持ち帰り等のゴミの減量化、分別の徹底、リサイクル運動に取り組む。	B	B	B	教室のゴミの分別の徹底など、少しずつ生徒の美化意識が高まっている。	「環境にやさしい視点で、自分に何ができるか。」を、まずは考えさせることから始める必要がある。	PTAと学校による制服のリサイクル活動はよい取り組みである。
		定期的に通学路清掃を行い、地域との関わりを一層広め深めていく。	A			少しずつ生徒の中に美化意識が芽生え、意欲的に取り組むようになった。		
保健体育	体育活動を通し、健康増進・体力づくりを基盤に「生きる力」をはぐくむ。	教職員が健康増進・体力づくりの必要性を共通理解し、授業の安全性かつ積極的な工夫改善に努める。	A	B	A	学校行事（球技大会・体育大会）をとおして、生徒たちと積極的に関わることで、健康の大切さを体感し、自覚できた。各行事に関しては教師側の指導が主体になったが、生徒は積極的に参加し活動できた。	生徒に自主性が育つ指導が求められる。計画から実施に至る運営にもっと関わらせることで充実感・達成感を体験させることが必要であると考えられる。	危機管理・安全教育等が求められている時代である。生徒指導部や総務部との連携深めて、備えていただきたい。
		生涯にわたって運動を楽しむ力と、自らの健康を維持できる力を育てる。	B					
		協調と責任ある集団行動を徹底する。						
	保健活動を通し、自理し改善していく資質や能力を育成する。	各種検診（健康診断）の受診しやすい環境づくりに努める。	A	A	養護教諭指導のもとスムーズに保健室運営、健康診断等の検診が行われた。感染症の流行状況を保健便りや掲示物により告知した。流行時には拡大予防のための対応ができた。	教師間の連携を大切にし、生徒の心身の健康状態を観察することが重要である。		
随時健康管理を促すほか食育を含むアドバイス・個別指導の充実を図る。								
人権教育	様々な人権問題についての認識を深め、より充実した践に努める。	様々な人権問題についての研修を深め教職員が共通理解を持って人権教育に取り組む体制を構築する。	B	B	B	各学年に応じた人権LHR教材を作成したり、「デートDV」についての講演会を実施したりして、生徒の人権意識の高揚を図ることができた。	生徒の人権意識のより一層の高揚を図るために行事やLHRを企画・工夫するとともに、日常の教育実践に生かす。	スクールカウンセラーによる生徒の心のケアをよろしくお願ひしたい。
		生徒の実態に即した人権LHRを企画・立案し、その実践に努める。	B					
	支援が必要な生徒を支える学校の体制づくり、カウンセリングの充実をに努める。	面談や中学校訪問、家庭訪問等、日々の活動を通して、課題をかかえる生徒の早期の対応を進める。	B	B	B	配慮を要する生徒の情報を収集し、教職員が共通認識を持って、個々の生徒に応じた適切な支援に取り組めた。	学級担任・各学年・他分掌との連携をさらに緊密にし、教育相談活動のより一層の充実を図る。	
不登校傾向のある生徒や支援を必要とする生徒等のケアや支援に努める。		B	スクールカウンセラーや他分掌と連携して生徒等のケアや支援に取り組めた。					
理数SSH	『体験重視型理数科教育プログラム』の研究開発をさらに進める。また、タイ姉妹校との交流計画を具体化する。	アンケート、レポート、生徒の自己評価、担当者による評価、講師、運営指導委員による評価などにより、多角的に評価を行う。	A	A	A	大学との連携が深まりとタイの姉妹校の発表も加わり発表会の内容が充実した。また、学会で発表するグループやロボットコンテストで表彰されたグループもあった。	教科間の連携、担任や学年の先生との連携をさらに密にして、知識、技能の深化を進める。PDCAサイクル等を取り入れた発展的な指導方法の研究開発をする。	スーパーサイエンスハイスクールでは苦勞も多いでしょうが頑張ってください。

A：十分である      B：ほぼ十分である      C：あまり十分でない